

⑤代名詞：名詞の代わりに使う語です。

「あれ、これ」と指で示すときに使う「指示代名詞」(this, that など) や、人を指すときに使う「人称代名詞」(I, you, we など) などがあります。

⑥冠詞：名詞の前につく語です。名詞の「アタマ」(前)に「冠」のようにつく語だと覚えましょう。

冠詞には「不定冠詞」と呼ばれる a[an] と「定冠詞」と呼ばれる the があります。後ろに母音 (a/i/u/e/o の音) で始まる単語がくる場合には、a は an になります。

不定冠詞 a[an] は「どれでもいい1つ」(不特定)を表します。the は会話をしているメンバーの中で「これ！」と決まっていること(特定)を表します。



⑦助動詞：動詞の前に置かれ、話し手の気持ちや判断を付け加える語です。

例 will (～だろう), can (～できる), may (～かもしれない), should (～すべきだ)

⑧前置詞：文字通り、名詞や代名詞の「前に置く語」のことです。名詞や代名詞とセットになって、「時間」「場所」「方向」などを表します。



⑨接続詞：単語と単語、文と文をつなぐ働きをする語です。

接続詞には等位接続詞と従属接続詞があります。

・等位接続詞：単語と単語、文と文などを対等な関係でつなぐ働きをする接続詞。

例 and (～と…), but (しかし), or (または)

・従属接続詞：名詞や副詞などの役割をするカタマリをつくる接続詞。従属接続詞がつくるカタマリは「従属節」と呼ばれ、メインの節(主節)に情報をプラスする働きをします。

例 that (～ということ), when (～のとき), while (～するあいだに)

⑩間投詞：驚きや喜びなどの感情や、呼びかけなどを表す語です。

例 oh (おお), hi (やあ), wow (うわあ)

単語の役割に関する用語

単語は文の中でさまざまな役割を果たします。ここでは単語の役割を表す用語をまとめておきます。

- **主語**：「～は」「～が」という動作をする人やものを表す単語です。主語になるのは名詞や代名詞です。
- **述語動詞**：主語の後ろに続いて、「～する」（動作）「～である」（状態）などの意味を表す単語です。
- **目的語**：他動詞や前置詞の後ろに置いて、動作の対象を表す単語。目的語になるのは名詞や代名詞です。

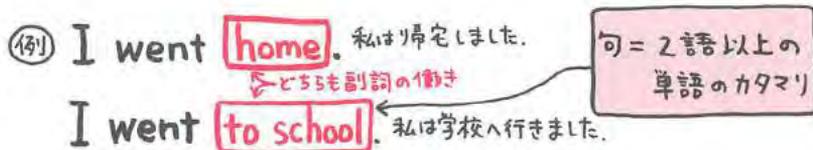


- **補語**：主語や目的語に説明を補う単語です。補語になるのは名詞や形容詞です。
- **修飾語**：文や語句を「飾る」単語、つまり情報をプラスする単語ということです。形容詞や副詞などが修飾語にあたります。

単語のカタマリに関する用語

主語と動詞を含み、ピリオド (.) やクエスションマーク (?) で終わるものを「文」と言います。「文」よりも小さな単語のカタマリとして「句」と「節」と呼ばれるものがあります。

- **句**：〈主語+動詞〉を含まない、2語以上の単語からできているカタマリのことです。句は名詞、形容詞、副詞の働きをします。



- **節**：〈主語+動詞〉を含む、2語以上の単語からできているカタマリのことです。節は名詞、形容詞、副詞の働きをします。



動詞の種類

動詞は英文のパターンを決定する重要な働きをします。英語の骨格を理解する上で、欠かすことのできない品詞です。種類や意味をしっかり押さえておきましょう。

英語の動詞は、「be動詞」と「一般動詞」の2種類に分けられます。am, is, areがbe動詞で、それ以外の動詞が一般動詞です。



be動詞は、その前後にくる名詞を「イコール (=)」でつなぎ、「A=B」という状態を表します。



一般動詞は、主に「～する」という動作を表します。「自動詞」と「他動詞」に分けられます。

自動詞は「歩く」、「眠る」などの完結した動作を表す動詞で、直後に人やものなどを表す名詞（目的語）を必要としません。



他動詞は「…を～する」という意味を表します。動詞のあとに、動作の対象となる人やものなどを表す名詞（目的語）を置く必要があります。



主述の一致と3単現のs

英語には主語の形に合わせて、動詞の形を変える「**主述の一致**」というルールがあります。このルールをマスターするためには、名詞の「数」と「人称」を押さえておく必要があります。

名詞の数は「単数」と「複数」のちがいです。

「人称」には、「1人称」「2人称」「3人称」の3つの種類があります。

「1人称」は「私(I)」、「私たち(we)など、話し手(自分)自身を指す語です。

「2人称」は「あなた(たち)(you) という話の相手を指す語です。

「3人称」は話し手(自分)と相手以外を指す語です。he(彼), she(彼女), Jim(ジム) などを表す語の他、ものや動物などもすべて3人称です。



特に主語が「3人称単数」で「現在形」の場合、一般動詞の語尾にs(3単現のs)をつけるというルールがあります。ここでは、3単現のsのつけ方のルールを確認しておきましょう。

基本のルール	語尾にsをつける。 例 come (来る) → comes, like (好き) → likes
s, o, x, ch, shで終わる動詞	語尾にesをつける。 例 do (する) → does, catch (つかむ) → catches
<a, i, u, e, o 以外の文字(子音字) + y>で終わる動詞	語尾のyをieにかえて, sをつける。 例 carry (運ぶ) → carries, try (努力する) → tries
特別な変化	例 have (もっている) → has

一般動詞の過去形・過去分詞

英語では動詞の形を変えて、さまざまなことを表現します。「～した」「～だった」のように過去のことを言うときには、動詞を**過去形**に変えます。受け身や完了形で使われる「**過去分詞**」も過去形と同じルールに従って活用します。一般動詞の過去形、過去分詞の活用のルールをセットでマスターしましょう。

過去形・過去分詞の変化のルールには「**規則変化**」と「**不規則変化**」の2種類があります。多くの場合は、語尾にedをつけるというルールに従った規則変化をします。このような動詞は**規則動詞**と呼ばれます。ただし、語尾の形によりedのつけ方に注意が必要なものがあります。その規則変化のルールを確認しておきましょう。

基本のルール	語尾にedをつける。 例 play(する)→played, help(助ける)→helped
eで終わる動詞	語尾にdだけをつける。 例 use(使う)→used, live(住む)→lived
<a,i,u,e,o以外の文字+y>で終わる動詞	語尾のyをiにかえて、edをつける。 例 study(勉強する)→studied, carry(運ぶ)→carried
<子音字+アクセントのある母音字+子音字>で終わる動詞	語尾の子音字を重ねてedをつける。 例 stop(止まる)→stopped, drop(落ちる)→dropped

この他に、上のルールには従わず、不規則に変化する動詞があります。このような動詞を**不規則動詞**と言います。

主な不規則動詞

	過去形	過去分詞
speak(話す)	spoke	spoken
see(見る)	saw	seen
give(与える)	gave	given
do(する)	did	done
eat(食べる)	ate	eaten
come(来る)	came	come

write(書く)	wrote	written
know(知っている)	knew	known
take(取る)	took	taken
break(壊す)	broke	broken
go(行く)	went	gone
become(～になる)	became	become

一般動詞のing形

3単現のsや過去形・過去分詞と並んで、大切な動詞の変化に**ing形**があります。be動詞と結びついた〈be動詞+動詞のing形〉で「**現在進行形**」を表すなど、動詞のing形も文中でさまざまな役割を果たします。一般動詞のing形の活用ルールを確認しておきましょう。

基本のルール	語尾にingをつける 例 walk(歩く) → walking, go(行く) → going
eで終わる動詞	eをとってingをつける。 例 come(来る) → coming, use(使う) → using
〈子音字+アクセントのある母音字+子音字〉で終わる動詞	最後の子音字を重ねてingをつける。 例 run(走る) → running, swim(泳ぐ) → swimming
ieで終わる動詞	ieをyにかえて、ingをつける。 例 die(死ぬ) → dying, lie(嘘をつく) → lying

be動詞の変形

ここまで一般動詞の変形を見てきましたが、be動詞も主語の数、時制などに応じて、さまざまな形に変化します。ここでbe動詞の活用についてもまとめておきましょう。

主語		原形	現在形	過去形	過去分詞	ing形
	I	be	am	was	been	being
	You		are	were		
単数	John		is	was		
	That house					
	He					
	She					
	This					
複数	That		are	were		
	John and Paul					
	We					
	They					

英文の基本パターン

英語の文には〈主語＋動詞〉のカタマリが入っています。動詞の種類により、そのあとに何が続くかがある程度決まっており、そのパターンは次の5つにまとめられます。

- ① **SV (名詞＋自動詞)**：動詞のあとに何もなくても文が成立する。多くの場合、動詞などに意味をプラスするものが続く。主な動詞は run (走る)、smile (笑う) など。

She runs every morning.

S V 意味をプラスするもの

彼女は毎朝走る。

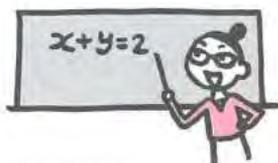


- ② **SVC (名詞＋自動詞＋形容詞[名詞])**：動詞のあとに主語の様子や性質を表す形容詞や名詞が続く。主な動詞は be 動詞, become (～になる) など。

She is a teacher.

S V C

彼女は教師です。



- ③ **SVO (名詞＋他動詞＋名詞)**：動詞のあとに「何[誰]を」を表す名詞が続く。主な動詞は study (勉強する), have (持っている) など。

She loves her cat.

S V O

彼女は自分のネコが大好きです。



- ④ **SVOO (名詞＋他動詞＋人を表す名詞＋ものを表す名詞)**：動詞のあとに「誰に」＋「何を」を表す名詞が続く。主な動詞は give (与える), buy (買う) など。

I gave her a present.

S V O 人 O 物

私は彼女にプレゼントをあげた。



- ⑤ **SVOC (名詞＋他動詞＋名詞＋形容詞[名詞])**：動詞のあとに「誰を」を表す名詞と「どのように」を表す形容詞や名詞が続く。主な動詞は call (呼ぶ), make (～にする), think (考える) など。

We call our cat Tama.

S V O C

私たちは私たちのネコをタマと呼びます。

